



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

令和4年11月21日

市長記者会見資料

令和4年度「かわさきマイスター」を認定しました

「かわさきマイスター」については、今年度、15名の応募があり、かわさきマイスター選考委員会での審議の結果を踏まえ、新たに5名を認定しました。

「かわさきマイスター」は、極めて優れた技術・技能で本市産業の発展や市民の生活の向上に御尽力いただいているとともに、後継者や若手の指導にも熱心な現役の職人の方々に市内最高峰の匠として贈る称号です。本事業は平成9年度から開始しており、今年度認定者の方々を加え、これまでに78職種119名の方々を認定しています。

* マイスターとは、ドイツ語で「名人」「親方」を意味します。

1 令和4年度かわさきマイスター認定者

- (1) おおなみ 大浪 ともかず 友和 氏（金属ヘラ絞り）
- (2) たなか 田中 しんじ 信司 氏（食品サンプル）
- (3) なかむら 中村 しんいち 新一 氏（一般精密板金加工・銅管パイプ加工・銀ロウ付け）
- (4) まえはま 前濱 せいじ 政次 氏（さんしん三線職人）
- (5) みたむら 三田村 ひろのぶ 宏宣 氏（精密研削加工）

2 配付資料

- (1) 令和4年度かわさきマイスター認定者 資料1
- (2) 令和4年度かわさきマイスター認定者技能紹介 資料2

【問合せ先】

川崎市経済労働局 労働雇用部 鈴木

電 話 044-200-2278

FAX 044-200-3598

E-mail 28roudou@city.kawasaki.jp

令和4年度かわさきマイスター認定者

氏名	年齢	職種	従事年数	勤務先
おおなみ ともかず 大浪 友和	45	金属ヘラ絞り	26	有限会社 相和シボリ工業
たなか しんじ 田中 信司	48	食品サンプル	28	有限会社 つかさサンプル
なかむら しんいち 中村 新一	72	一般精密板金加工 ・銅管パイプ加工 ・銀ロウ付け	41	有限会社トワダ
まえはま せいじ 前濱 政次	71	さんしん 三線職人	41	前之浜三線工房
みたむら ひろのぶ 三田村 宏宣	51	精密研削加工	27	三田工機株式会社

※ 年齢及び従事年数は令和4年11月21日時点を基準としています。

令和 4 年度かわさきマイスター認定者技能紹介

大浪 友和（おおなみ ともかず）さん

- (1) 年齢：45歳
- (2) 職種：金属ヘラ絞り
- (3) 従事年数：26年
- (4) 勤務先：有限会社相和シボリ工業
住所：高津区新作3-3-2
電話：044-888-6361



大浪さんの父、大浪忠氏は平成23年度認定マイスターであり、友和さんは金属ヘラ絞りの技能を継ぐとともに、現在は相和シボリ工業を代表取締役として経営しています。

ヘラ絞りは回転する円形の平面金属板にヘラと呼ばれる真鍮などの棒やロールを押し当て円錐や円筒状に成形する技能で、棒の末端を腋で挟み、全身を使い回転する金属板に微妙な力を伝えていきます。ヘラから伝わってくる振動や音、ヘラと金属板の摩擦熱で生まれる匂いなど、五感を研ぎ澄ます必要もある、熟練の技能になります。

ヘラ絞りで造られるものには、例えば身近なものではタンブラーや電灯の笠、灰皿などがあります。工業部品ではロケットや新幹線の先端部、自動車の排気系統の部品などがあります。いずれも繊細な曲線形状を精密な寸法精度での成形が求められるものばかりで、板厚が均一になるように金属板を絞っていくのも高品質な部品や商品を加工するには不可欠です。

大浪さんは鉄や銅といった一般的な材料ばかりではなく、あらゆる難加工材の加工特性を熟知し対応できます。金属板を加工しやすくするために鈍しという熱処理を施さずに加工できる技能、金属板を長く絞っていく深絞りの技能など、ヘラ絞りの極みともいわれる技能を得意としています。

大浪さんは現在、父の忠さんから受け継いだ技能に磨きをかけるとともに、その技能をNC（数値制御）機械に移植して効率化を図っています。金型の内製化も図り、ヘラ絞りの可能性を拓いています。

ヘラ絞りの可能性を拓ける試みの1つとして、大浪さんはオリジナル商品の製作にも取り組んでいます。漆工芸家、研磨加工企業の協力を得て製作したピアタンブラー「金胎麗漆」の販売をはじめました。これは外面に漆塗りを施し、内面は鏡面研磨で仕上げたステンレス製のタンブラーで飲み口は大浪さんが工夫した絞り加工で板をしごき、口当たりが良くなるよう薄い形状に仕上げ好評を得ています。また金属板や木材の端材、廃材を利用した花瓶「Re-shibo（リシボ）」を発表しました。大浪さんの挑戦はこれからも続きます。



自動機によるヘラ絞り



花瓶「Re-shibo（リシボ）」

田中 信司（たなか しんじ）さん

- (1) 年齢：48歳
- (2) 職種：食品サンプル
- (3) 従事年数：28年
- (4) 勤務先：有限会社つかさサンプル
住所：宮前区水沢3-3-15
電話：044-976-0828



田中さんは、日頃、私たちがよく目にする食品サンプルを製作しています。田中さんの父、田中司好さんは、平成21年度認定マイスターです。田中さんは司好さんが培ったサンプルづくりの技能を進化させ、食品サンプルの用途の多様化に応じており、現在はつかさサンプルの代表を務めています。

田中さんは食品サンプル製作の技能習得に努めますが、一朝一夕にはいきませんでした。食品サンプルの先駆期的時代から、ビニール樹脂で造るサンプルが主流になる今日まで、様々なサンプル需要に応じてきた父の技能は奥深いものがありました。しかし、田中さんは食品サンプルづくりの技能を習得したうえで自ら工夫を重ね新しい技法を編みだしています。

田中さんの技能の秀逸さを端的に表すサンプルの1つにしゃぶしゃぶの牛肉があります。これは以前から注文が続いており好評を得ているサンプルですが、田中さんは本物の質感に近づけるために試行錯誤を重ね、今では霜降の模様など、箸でとって鍋に入れたくなるほどに牛肉の美味しさを再現したサンプルを実現しています。田中さんがこのサンプルを造り上げるまでには、サンプルづくりの基本を大切にしながらも固定観念にとらわれない創意工夫がありました。様々な材料や道具を試し、そして成形用の型の取り方、着色の方法、サンプルの劣化防止の方法等々、独自の技法を考案しました。

田中さんのもとには、あらゆる食材や料理のサンプルの注文がきます。それらの一つ一つに田中さんの工夫が籠ったサンプルを納品しますが、近年はサンプルの用途が広がっています。店頭のカースにサンプルを並べる馴染みのあるものばかりではなく、広告、映画、ウェブサイト用の注文が増えています。サンプルの映り方は媒体によって違いがあり用途に応じて質感の出し方が異なります。ただ、料理の世界や食品業界で「シズル感」といわれる食欲を刺激するような瑞々しい感覚を表現することには変わりありません。田中さんは料理の世界にいた経験を活かして「シズル感」を出しています。



牛肉のサンプルの盛り付け



様々な食品サンプル

中村 新一（なかむら しんいち）さん

- (1) 年齢：72歳
- (2) 職種：一般精密板金加工・銅管パイプ加工・銀ロウ付け
- (3) 従事年数：41年
- (4) 勤務先：有限会社トワダ

住所：高津区下野毛3-8-6

電話：044-813-4518



中村さんが製作している金属加工品（機械装置冷却用の銅管パイプ等）は「パイプ加工」、「精密板金加工」、「銀ロウ付け」といった複数の異なる製造過程が必要となっています。これらは通常、各分野の専門の職人が対応しますが、中村さんは複合する全工程を1人で担うことができる技能を持っています。一連の技能によって製作された部品は、現在の社会生活に欠かせない半導体や液晶パネル等を生産するための製造装置に組み込まれており、納入先のメーカーから高い信頼を得ています。中村さんは有限会社トワダの先代社長の下、昭和56年の入社以来40年を超えて一筋に同社を支えてきました。

前述の金属加工品における「パイプ加工」については、銅管をコイル状に巻いていく加工であり、入社当初は外注していた工程でしたが、中村さんは自らコイル状に巻く治具を自作し、図面通りの寸法に仕上げる技能を身に付け、金属加工品を全て自社で製作することを可能としました。

また、「精密板金加工」は、加工したパイプに取り付ける部品を板金で製作することです。円状のコイルには起点が無いため、指定通りの位置に部品を正確に接合する際に用いるには高度な技術力が必要であり、中村さんは図面から完成形をイメージし、必要な治具を考案・製作することで可能としています。

最後の「銀ロウ付け」とは、銅と銅、銅と銅以外の金属（真鍮やステンレス等）を接合する技術であり、銀ロウを部材と部材の間に流し込むための温度調節や、流し込む量の調整に技能を要します。この銀ロウ付けは、中村さんは長年の研鑽により培った高い技能により、部材の金属ごとの最適な温度や、銀ロウを流し込む量を見極めることができます。

有限会社トワダは現在従業員6名で、若い技能者も在籍しています。中村さんは後進の従業員たちに、独学で習得した技術や知識・経験を伝えています。他にも、地域の工業組合が市民向けに行っているオープンファクトリーに参加して、自社の技能を広く見学してもらうだけでなく、毎年地元中学校の職場体験も受け入れ、中村さんが設計した「ペン立て・メモホルダー」の製作体験を実施しています。これは、中村さんの「ものづくりの楽しさを伝えたい、未来へ繋げたい」という思いが込められたものです。



コイル巻き



銀ロウ付け作業の様子

前濱 政次（まえはま せいじ）さん

- (1) 年齢：71歳
- (2) 職種：三線職人
- (3) 従事年数：41年
- (4) 勤務先：前之浜三線工房

住所：多摩区生田2-18-17

電話：044-922-8667



与那国島出身の前濱さんは子供の頃から三線（さんしん）に親しんでいました。三線は戦国時代に中国から沖縄に伝わり、それが本土で三味線になりました。前濱さんは川崎に来てからは電気工事業を営み、その傍らで三線の演奏活動も行っていました。やがて理想の三線をつくりたいという想いを強くし三線製作を生業にするようになりました。

三線は棹（さお）が音色を決めるといい、前濱さんは棹にこだわった三線づくりを始めました。良い棹をつくるには樹齢500年から600年の琉球黒檀を使うのが理想とされていて、さらに棹に反りや捻じれが生じないようにするには十分に自然乾燥させる必要があります。前濱さんは本格的な三線製作を始めるまでに、8年をかけて棹材を集め準備しました。

前濱さんのもう1つのこだわりは、良質の三線を均質につくることです。三線製作の本場の沖縄では手作りが主流で作り手によってそれぞれ特徴がありますが、同じ作り手の三線であっても形や質に差が生まれる場合もあります。前濱さんは個体差を解消するために、各種の木工機械を自作して三線を製作しています。

棹の加工は大まかに棹の形に切り出した棹材を、手持ちグラインダーを利用して自作した平面研削盤で丹念に仕上げていきます。棹の頂部は自作のコンパスを使って曲線を描き、削っていきます。弦の張り具合を調節する糸巻きは頂部から端部にかけてテーパー（円錐状の傾斜）がついており均質に削るのが難しいですが、前濱さんは自作の小型旋盤で正確に削ります。胴は音を大きくする役割があり、胴に貼った蛇皮の張り具合で音の高さが決まります。三線はニシキヘビの皮を使うのが基本で丈夫な反面、良い具合に均等に伸ばすのが難しい性質があります。前濱さんは小型ジャッキを使った自作の皮張り機で、時間をかけて均質にニシキヘビの皮を胴に張っていきます。

前濱さんは琉球文化を広め伝統を繋いでいきたいという想いから演奏活動を続けている他、三線製作の研修を行うなど、色々な活動を展開しています。また、三線製作の継承者として、前濱さんの長女が技能を磨いています。



三線を演奏する前濱さん



三線製作の様子

三田村 宏宣 (みたむら ひろのぶ) さん

- (1) 年齢：51歳
- (2) 職種：精密研削加工
- (3) 従事年数：27年
- (4) 勤務先：三田工機株式会社

住所：高津区梶ヶ谷5-7-3

電話：044-877-0229



三田村さんは卓越した精密研削加工の技能者であるとともに、現在は3代目の代表取締役として経営に勤めています。製作・販売している「特殊切削工具」や「精密治工具」は、顧客が様々な製品・パーツを量産するにあたり重要な工具のため、多品種・小ロットで厳格な精度・耐久性（硬度）、形状が求められます。

自身の保有する研削加工技術により、トラック・重機・潜水艦等のディーゼルエンジンの基幹部品の一つである、燃料噴射ポンプの部品を製造する工具等を供給しています。他にも、カラーレーザープリンターの転写用シャフトは数ミクロン（1/1000mm）の凹凸でも印刷物に影響を及ぼすため、超精密な仕上げ工程に必要とされる精密ダイヤモンドバイト（切削工具）を供給しています。

当社の製品は、超硬合金やダイヤモンドコンパックス（微粉ダイヤモンドの焼結体）などの硬い素材を使っていることから加工が困難ですが、三田村さんは熟練工が使用する多種の汎用機で長年技能を磨いてきたので、コンピュータ制御された自動機に頼らずに取り組むことができます。

「プロファイル研削盤」、「ダイヤモンド研削盤」、「平面研削盤」、「万能工具研削盤」、「円筒研削盤」などを使用する際に、左右の手で異なる操作を同時に行うだけでなく、目や耳、指先の感覚を研ぎ澄ませることで、高難度の加工を精密かつ効率的に行っています。これには多能工としての様々な知識、長年の経験とノウハウの蓄積が必要です。

三田村さんは、若手社員の技術・技能の向上、技術研鑽を促進するべく、汎用機の操作経験、加工技術のCNC（コンピューター数値制御）化や標準化を進めることによって技術継承に注力しています。中でも注目すべきは、AIによる適切な工程設計を可能にした技術伝承の取組です。経営者の視点から、設備や従業員の稼働状況、製品生産進捗状況など、全てが繋がる仕組みを整備して、さらに高度なものづくりにチャレンジしています。三田村さんはこのようなAI・ITを活用した技能継承や生産性向上への取組は、多くの中小企業にとって持続可能な経営に有益な取組みであると考えていて、自社のみならず、市内製造業や他の産業への波及のため、セミナー等での講演を積極的に行っています。



特殊切削工具の製作の様子



特殊切削工具



ダイヤモンドコンパックスを使用した精密治工具